

あなたを

「生藍染め」をやってみよう。

米教協 オ33 国全国大会
13の市 秋田大会
お楽しみ広場 86. 8. 1

再び

昨年の「風山大会」において、私たち、ひめと理料カーウル（地下茎舎）は、はじめてのお楽しみ広場への参加として、「タマネギの皮でシャツを染める」「フジの葉で……」等々の草木染めを出しました。そのとき、本藍染めの研究者 正木国枝（山崎町在住…あの山崎断層で有名なところですよ）さんからいただいた。藍の種を育て、その葉をもってきて、「生藍染めに挑戦」をやってみたのですが、そのときあまりうまく行きませんでした。

あとで、わかったのですが、これには、少しムリがあったようです。それは、染める布に問題があったようです。木綿を牛乳にひたし乾かしたのを使ったのですがダメだったようです。ここには、「藍の歴史」があるようです。つまり、「藍」の青は、もともとは「庶民の色」ではなかったのです。絹にしが、きまらぬいものだったのです。王侯貴族や将軍、大僧正の身辺を飾った色だったのです。「庶民の色」になったのは、木綿がやってくるまで、そして、加工（発酵）させた藍 = 「染（ま）くも」をつくる技術が、発明されてからのことなんです。

このことがわかり、さっそく、絹、毛糸で「藍の生葉染め」をやってみました。みごとに、緑のジュースにつけた布は、ひきあげるとゴバルト・ブルーになるのです。この感動、感動を多くの人のそのにしたいと考え、再び、ここにもって来ました。

播磨の国から

藍というと「阿波の藍」といわれるくらい阿波の国（徳島県）の藍は有名ですが、私たちの住む播磨の国（姫路）も、昔はそれにきけな（ぐら）い藍づくりは盛んだったようです。もちろん藍染めも、本家本元は、むしろ播磨の国のようです。豊臣秀吉の時代に、播磨の国から、阿波

の国に伝わったようです。吉野川の洪水に苦しむ人々に、経済安定のため
に、藍の栽培が奨励されたようです。今、この本場の播磨の国から、藍の種子
をもって来ました。これを、全国各地の人に育ててほしいのです。家のプランタ
ンに、学校学級園、畑に…。そして、多くのの方々、子どもたちに、藍染めのす
ばらしさを、植物たちと人間のつきあいを、楽しんでほしいのです。

いろいろなところで、この藍がどう育っているか教えて下さい。来年の
夏には、緑の葉をいっぱい広げた藍の藍を摘むこと楽しみにしています。

栽培の場合

← くれくはおぼえてほしいのですか？

3月末～4月初旬 植まき	5月 植えつけ	7月中旬～ 生葉	9月～10月 花が咲く 種とり
-----------------	------------	-------------	--------------------

※ 藍は、サデ(赤マンマ)の仲間です。そんなかわいい花をつけます。
けっこう強い品種で、かなり条件が悪くてもがんばるようです。

生藍染め

～「藍の生葉染め」～

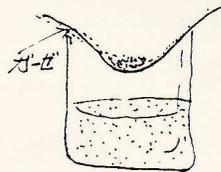
① 藍の生葉を摘む。
(7～8Aごろ)



② 生葉をミキサーに
かける。(染液を作る)



③ ガーゼで染液をこし取る
(やわらかくする)

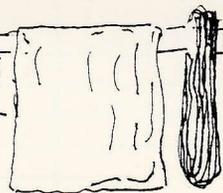


④ 絹布の色糸等を染液
に浸してはあげる作
業をくりかえす。



このとき
空気に入れ
ると色が
着にわか
るこれは
みごとで
ある
(空気媒染)

⑤ 水洗いをして
く乾かす。



※ 注意: 糸糸は前色で
石けんで洗っておいて
油気をとっておきます。

※ 緑色を出したいときは
あらかじめ、「タマネギの
皮」で染色しておくといふ。

※ たたき染めも葉はゆ
りかた

参考にした本

- ・「藍葉草木染め」
(村上直太郎著 新潮選書)
- ・「はりの国と文化」
(寺林 峻著 聚海書林)
- 他...

※ これは、科教協秋田大会の「お楽しみ
広場」の出しものために書いた文章で
す。この「しおり」と一緒に、藍の種子
を配るつもりです。カンパとして等100
の予定です。